

## ニュース

ブタナ属（キク科）の属名は *Hypochoeris* でなく *Hypochaeris* である(露崎史朗<sup>a</sup>, 北山太樹<sup>b</sup>)Shiro TSUYUZAKI<sup>a</sup> and Taiju KITAYAMA<sup>b</sup>: *Hypochoeris* is a misspelling for *Hypochaeris* (Asteraceae)

米国西海岸で広く使われている Hitchcock and Cronquist (1973) の「Flora of the Pacific Northwest」ではブタナ（あるいはタンポポモドキ）の学名の綴りは *Hypochaeris radicata* となっている。一方、日本の図鑑等（北村・村田・堀1957, 長田1972, 1976, 大井1975, 奥山1977, 佐竹ら1981, 小野・林1987, 沼田・吉沢1988）では *Hypochoeris radicata* となっている。つまり属名の7文字目の綴りが米国では ‘a’ となり、日本では ‘o’ となる傾向がある。唯一、原色日本植物図鑑（北村ら, 1957）の索引の部分のみが ‘a’ の方の *Hypochaeris* を用いていた（但し、本文中では *Hypochoeris* となっている）。牧野（1977）にはこの属の記載はなかった。そこで、いずれの綴りが正しいのかを明らかにするために、原記載等を調べてみた。

この属の原記載は、"Species Plantarum" 中に Linnaeus (1753) によってなされ、その学名は *Hypochoeris* ではなく *Hypochaeris* となっている。しかしこの綴りは Linnaeus (1754) の "Genera Plantarum" において *Hypochoeris* となっており、これが現在に至る綴り間違いの始まりとなっているようである。命名規約上は "Species Plantarum" の名前が優先されることになる (ICBN Art. 13.4) のでブタナの属名は *Hypochaeris* が正しいことになる。ただし、語彙上は *-choeros* が「子豚」を意味するギリシア語を起源とする（豊国1987）ため *-chaeris* は誤植かリンネのミススペルである。実際に Sprague (1929) は言語学上の理由から *Hypochoeris* が正しいと主張したが、この意見は採用されていない。1905年以前は命名規約がなかったので西欧でも "Genera Plantarum" に拠って研究を進めた人はいるようで、1888年に *-o* としたイギリスの文献がある (Forbes and Hemsley 1888, p 478)。最近でも Mabberley (1987) は *-o* としている。全体的に西欧ではこ

の綴りには修正が入れられており、"Index Nominum Genericorum (Plantarum)" (1979) や Zander (1994) では *Hypochaeris* を *Hypochoeris* と並べた上で採用しているので、今後 *-o* としたミススペルが見られることは減るであろう。

日本におけるこの属の初記載は、Makino (1908) であり、*Arnica ciliata* Thunb. の新組合せとして *Hypochoeris ciliata* を発表している。牧野が、どの文献から *Hypochoeris* を引用したのかを特定することはできないものの、この時問題の綴りが日本に輸入されたことは疑いない。さらに、原 (1952) が Sprague (1929) の意見に従い、*Hypochoeris* と *Hypochaeris* を並べた上で前者を選んだために、その後国内ではほとんど全ての文献がこれを採用し、今日上述のようなミススペルの定着に至ったものと思われる。Kitamura (1955) では *Hypocaeris* となっており、これも綴り間違いである。日本にはこの属ではエゾコウゾリナ (*H. crepidioides*) 1種のみが北海道の日高・アポイ山に限られて分布している（北村・村田・堀1957）ためか、広くこの属名を使用することが少なかったことにも綴りの修正が入らなかつた一因であろう。しかし、現在日本では帰化植物であるブタナが旺盛な侵入、定着をしており、今後この学名の使用も増えるであろう。この誤りは、早急に改められるべきものである。

## 引用文献

Farr E. R., Leussink J. A. and Stafleu F. A. 1979. Index Nominum Genericorum (Plantarum), Vol II. Eprolithus-Persia, Dr. Junk Publishers, The Hague.

Forbes F. B. and Hemsley W. B. 1888. An enumeration of all the plants known from China proper, Hormosa, Hainan, Korea, the Luchu Archiperago, and the Islands of Hongkong, together with their distribution and synonymy. J. Lin. Soc. (Bot.) 23: 1-489.

原 寛 1952. 日本種子植物集覽. 岩波書店, 東京.

Hitchcock C. L. and Cronquist A. 1973. *Fora of the Pacific Northwest*. University of Washington Press, Seattle.

Kitamura S. 1955. *Compositae Japonicae, Pars Quarta. Mem. Col. Sci., Univ. Kyoto, (Ser. B)*. 22: 81-126.

北村四郎, 村田 源, 堀 勝 1957. 原色日本植物図鑑 草本編 I・合弁花類. 保育社, 大阪

Mabberley D. J. 1987. *The plant-book, a portable dictionary of the higher plants*. Cambridge University Press, Cambridge.

小野幹雄, 林 弥栄(監) 1987. 原色高山植物大図鑑. 北隆館, 東京.

Linnaeus C. 1753. *Species Plantarum* 2. Laurentii Salvii, Stockholm.

—1754. *Genera Plantarum*. Laurentii Salvii, Stockholm.

Makino T. 1908. *Observations on the flora of Japan*. Bot. Mag. Tokyo 22: 33-38.

牧野富太郎 1977. 牧野新日本植物図鑑. 北隆館, 東京.

沼田 真・吉沢長人(編) 1988. 新版日本原色雑草図鑑. 全国農村教育協会, 東京.

奥山春季(編) 1977. 寺崎日本植物図譜. 平凡社, 東京.

大井次三郎 1975. 日本植物誌 顕花篇 改定増補新版. 至文堂, 東京.

長田武正 1972. 日本帰化植物図鑑. 北隆館, 東京.

長田武正 1976. 原色日本帰化植物図鑑. 保育社, 大阪.

佐竹義輔, 大井次三郎, 北村四郎, 亘理俊次, 富成忠夫(編) 1981. 日本の野生植物 草本 III. 平凡社, 東京.

Sprague T. A. 1929. The correct spelling of certain generic names IV. *Bul. Misc. Inform.* 2: 38-52.

豊国秀夫 1987. 植物学ラテン語辞典. 至文堂, 東京.

Zander R. 1994. *Handwörterbuch der Pflanzennamen*. 15. Auflage, Eugen Ulmer GmbH & Co., Stuttgart.

(<sup>a</sup> 北海道大学大学院地球環境科学研究所,  
<sup>b</sup> 国立科学博物館植物研究部)

### チチブイワザクラ, ミヤマスカシユリの保護について(山崎 敬)

Takasi YAMAZAKI: Preservation for *Primula tosaensis* Yatabe var. *rhabdotica* (Nakai & F. Maekawa) Ohwi and *Lilium maculatum* Thunb. var. *bukosanense* (Honda) Hara

チチブイワザクラ, ミヤマスカシユリは埼玉県の武甲山の石灰岩の崖にのみ生える希少な植物である。武甲山には、チチブイワザクラ, ミヤマスカシユリ, ブコウマメザクラなど、ここにしかないものの他に、チチブミネバリ, チチブヤナギ, ミョウギシャジン, チョウセンナニワズ, チチブヒヨウタンボク, コウシュウヒゴタイなど、武甲山だけに分布するものではないけれど、石灰岩上に生える希少植物が見られることで貴重な場所である。1941年に「武甲山石灰岩土地特殊植物群落」として一部の地域が国の天然記念物に指定され、1985年にさらに別の地域が追加された。しかし武甲山はセメント用の石灰岩の採掘で、頂上から削られ、無残な姿になっている。当然そこに生えている貴重な植物も消滅の危機にさらされているわけで、そのまま放置しておけば絶滅の恐れがある。

このことを心配した地元の横瀬町では鉱山会社との話し合いにより、1991年に武甲山石灰岩特殊植物保護増殖委員会を作り、菱光石灰工業株式会社の協力のもとに、貴重な植物の保護増殖を始め

た。チチブイワザクラ, ミヤマスカシユリの自生地の一部を保護するとともに、菱光工業から一部の土地を借用して植物園を作り、武甲山の植物を集めて多くの人に武甲山の植物を知ってもらうとともに、管理員を中心としてチチブイワザクラ, ミヤマスカシユリの増殖を試みた。幸い増殖に成功し、現在は保護地域に種子を蒔いたり、増えた株を植えたりして、保護地域での植物の増殖を試みている。横瀬町と菱光石灰工業株式会社の努力で、武甲山の貴重な植物は保護されているので、消滅の恐れはないものと思う。植物園の場所が一般の人が見にくるにはやや不便な所にあるため、町では横瀬中学校の中庭に武甲山の植物を栽培して教育の役に立てている。このような地味な仕事をあまり知られることもなく続けている、町と会社の方々に深く敬意を表したい。なおこれらの植物は石灰岩採掘工区内にあり危険も伴うので、現在は学術研究調査の方のみに解放しているので、横瀬町の教育委員会に連絡すれば、教育委員会として便宜をはかるとのことである。

(東京都中野区)